

エジプトの現状

2013年1月29日、NPRの「Talk of the Nation」において、エジプトの現状を理解するために主としてアメリカから見た討論が実施された。参加者は Shibly Telhami (Professor of University of Maryland、著書“World Through Arab Eyes”)、Rami Khouri (在バイルートの“Issam Fares Institute for Public Policy”)に関わるジャーナリスト)、Steve Cook (Middle East Study at Council on Foreign Relations [USA])の三者である。三者の共通する論点は下記の通りである。

1. エジプトの現在の政治情勢は極めて不安定であり、モルシ大統領は国民の考え方を二分する重要な政治危機に直面している。
2. アメリカのバラク・オバマ大統領は、過去の歴代大統領による軍事援助を踏襲し本年度も F16s 戦闘機を含む 10 億ドル相当の兵器による援助を継続すると発表。それによってエジプト軍隊の中東での安全保障の役割を維持しようとしている。
3. 恰もこれはエジプトが軍事政権への再移行を助長するとも考えられる。
(3名のうち2名は否定的)
4. 現エジプト政権に対する反対派にモメンタムを与えたのは、現在の経済が極めて深刻な情勢である点。その原因は、大統領選出後、直ちに憲法が速やかに制定されなかったことへの不満、更に下院議会選挙がまだ終結していないことから行政プロセスがスムーズに行われぬ点などと考えられる。
5. モルシ大統領が所属するムスリム同胞団グループは、選挙時に単独では 30%以下の支持率を有した。しかしムスリム同胞団は回教徒による連合内閣であり、過去 80 年間に渡る長い過去の圧政に屈してきた悪夢から完全に脱却できていない。それと同時にコプト教、キリスト教、更には女性人権擁護グループからの圧力からの影響に曝されている。
6. エジプトは何千年もの歴史の中で完全共和制、または民主政治を経験していない。
7. エジプトの軍隊は過去には警察権を内政に及ぼす役割をしたことがない(前ムバラク大統領失脚時を除く)。国民の認識は軍隊の役割について外部侵略からの安全保障を維持する国家安全のための役割として認識し、治安維持力としてまたは警察力とし機能することを認めていない。しかし国民の軍隊への信頼度は高い。
8. 国際通貨基金(IMF)の 48 億米ドルの融資実施の決定は、モルシ大統領経済政策が機能することの確認が取れない限り、今までの状態で決定が引き延ばされるであろう。
9. カタール政府は当初から大きな資金援助を継続しており、今後も継続するものと思われる(過去、現在の米国サウジの関係と類似している)

■当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性について弊社が保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果および市場環境の変動等を保証するものではありません。■当資料は投資家の皆様にエジプト市場のご理解を高めて頂くために作成した資料であり、証券取引法、投資信託及び投資法人に関する法律に基づく開示資料ではありません。また、特定ファンドの勧誘、販売を目的としたものではありません。■当資料は本来の受信者の社内用途のためだけに提供されています。本資料のいかなる部分も、弊社の事前の書面による同意を得ることなく、その内容の全部または一部を許可なく使用、発信、配布または複写することを固く禁じます。